今月の読み物

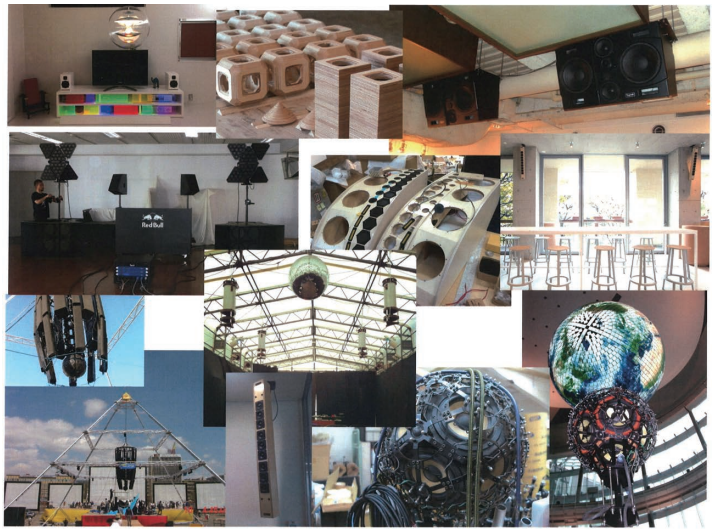
〈新木場〉気になるスポット
田口音響研究所株式会社

月 報 委 員
井上　達夫

今月号の「気になるスポット」は「音」にまつわる隠れた名所へ皆さんをご案内します。国内のPA・音響の世界では抜群の知名度を誇る“Taguchi”ブランドのスピーカーが、なんと新木場で製作されているとの情報を得て、早速月報取材班が訪問してまいりました。

2010年に新木場へ

新木場一丁目、dacビル２階に工房を構える田口音響研究所株式会社は、1976年の創業以来一貫してオリジナルスピーカーの製作を続けており、今回は同社にお邪魔し、田口和典社長にいろいろなお話を伺いました。田口社長はもともと横浜を拠点に事業を展開されてきましたが、2010年に縁あって新木場へ移転。社名も田口音響研究所に改め、従来からの独自の設計思想に基づくスピーカー作りを続けられています。同社の納入実績リストからごく一部を紹介すると、皆さんご存知の新木場STUDIO COASTをはじめ、BLUE NOTE TOKYO、新国立劇場、サントリーホール、さらには衆議院本会議場、築地本願寺本堂などなど、納入先を伺っただけでもその実力が推し量られます。



各地の施設やイベントで活躍する田口音響研究所のスピーカー

工房ツアー

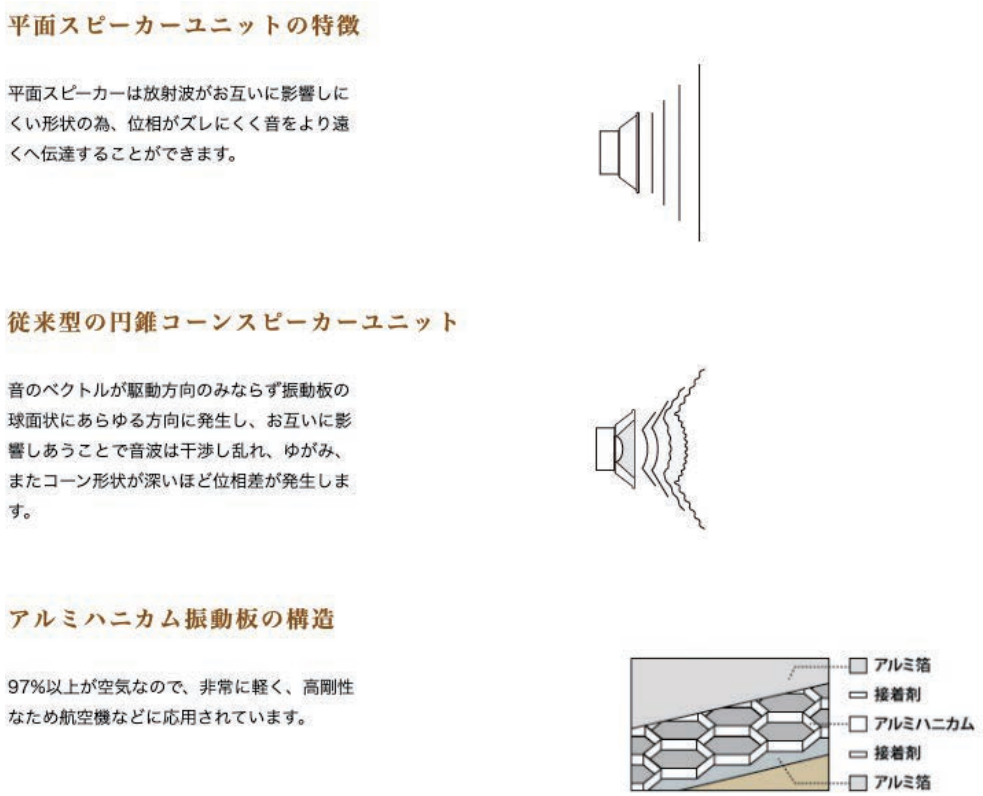
さて、田口社長に挨拶をして、組合月報の紹介をさせていただいたあと、まずは工房ツアーに出発。製作途中のスピーカーのなかには「えっ、これがスピーカーですか？」と思わず尋ねてしまうような形のものも。そして注目すべきは大型のNCルーター。スピーカーボックスのように背の高いものを加工するため、かなりの高さがあり、２階の工房には収まりきらず１階の吹き抜けになったスペースに設置されていました。取材当日は丁度ルーターが一仕事終えたと

製作途中のスピーカー
店舗の天井用です

ころで、残念ながら稼働している姿を見ることはできませんでしたが、田口音響研究所の自慢のマシンだそうです。また別の場所では、田口社長に「これは企業秘密だから写真は遠慮してね」と言われた秘密の工程も。なにしろここで作られる製品のほとんどが案件ごとの特注品なので、工程のかなりの部分が手作業のようです。スピーカーボックスの材料について質問すると、ほぼ全てに輸入品のラーチ合板が使用されているそうです。なかでもラトビア産のものは4X8サイズの面材が縦目になっているので、とても木取りがし易く重宝しているとのことでした。

試聴タイム

工房ツアーから戻ると、工場長のエリックさんが機材の配線を済ませておいてくださり、お待ちかねの試聴タイムの始まりです。田口社長から各音源の聴きどころを説明してもらいながら、ロック、ポップス、クラシック、ジャズ、そして和太鼓まで、さまざまな音楽を試聴させていただきました。肝心の「音」に関して言えば、まず田口音響研究所のスピーカーの特徴として挙げられるのが音の伝播力の強さ。通常「スピーカー」と聞くと私たちは摺鉢状の形を思い浮かべますが、同社のスピーカーは独自の設計による平面板の振動により音を発生させます。こうして発生した平面波は摺鉢型スピーカーに比べて格段に音の拡散・減衰を防ぐことが可能で、現にわれわれ取材班も田口社長に言われるままにスピーカーから７～８ｍばかり遠ざかってみましたが、ほとんど音量の減衰を感じませんでした（下図参照）。また、音の解像度の良さも特筆に値するレベルで、個々の楽器の音をきちんと聞き分けられるのはもちろんのこと、圧巻だったのは和太鼓の演奏を再生したときで、最後の一打の余韻がフッと消える瞬間の空気の変化をはっきりと身体で感じることができました。



平面スピーカーの仕組み（田口音響研究所ホームページより）

ぜひ“Taguchi”の音を体験して欲しい

「ああ、このスピーカー欲しい」と、おそるおそる田口社長に値段を尋ねれば、「２本で120万円」と潔く諦めのつく回答（確かに個人としてはなかなか手が届きませんが、これだけの性能のスピーカーがこの価格なら、実はお買い得だと思いますよ）。では“Taguchi”スピーカーの音を気軽に体験できる場所は？　田口社長のお勧めは意外にも映画館。吉祥寺パルコ内のシネコン「アップリンク吉祥寺」では田口音響研究所のスピーカーシステムが全スクリーンに採用されており、映画の台詞などが、たとえ外国語であろうと、実に自然にスッと身体に入って来るのを体感できるそうです。なるほど、音楽を再生するだけが音響の役割ではないという同社の「もの作り哲学」の一端を垣間見た気がします。また、新しい音響表現の可能性を探る試聴会や、子供たちに良い音で世界各地の音楽を聴いてもらう（今風の言葉で言えば「音育」とでも呼べるでしょうか）チャリティーイベントなども積極的に開催されているそうで、このコロナ禍終息のあかつきには木材会館のホールやギャラリーでこうしたイベントを共催できたら、とても素晴らしいのではないでしょうか。

田口社長（左）と、後方は今回視聴させていただいたスピーカー

取材を終えるにあたって、田口社長に「新木場に移転して良かったことは？」と質問すると。まず、都心からのアクセスが良いのでクライアントの方々が気軽に訪ねてくれるようになったこと。そしてレーザー加工や、自社の機械が故障したときに加工を頼める木工所が近所に沢山あること。さらに物流の便もとても良いなど、新木場移転は大正解だったそうです。

最後になりますが、ご多忙中にも拘わらず、音響に関しては全くの素人のわれわれ取材班を相手に、長時間に亘り楽しく分かりやすい説明をしてくださった田口社長と、今回の取材申込みにあたり快く紹介の労を執ってくださった東木協二班、株式会社プライ＆ウッドの安藤社長に厚く御礼申し上げます。

（取材：月報委員会　本西・井上）

田口音響研究所株式会社
東京都江東区新木場1-15-10　DAC 2F
電話：03-6457-0765
ウェブサイト
http://taguchi-onken.com